

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

こやす さと かい

Vol.7 子安の里の会(紀宝町神内)の軌跡



—美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく—

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。

本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、紀宝町神内地区で多岐にわたり様々な取り組みを行っている「子安の里の会」を紹介する。

田んぼを通じた交流で 笑顔あふれる神内に



子安の里の会
代表 中西 和益さん

猿口 芳志さん

紀宝町神内地区。ここは、地域外から多くの人が訪れる「神内神社」をはじめ、16個の名所・古跡があり、多くの神が祀られている歴史ある地区である。

地区の中心には、約30ヘクタールの田んぼが広がっており、粘質な土壌のため、美味しいお米が育つと評判だ。神内は、美しい田園風景とともに、その歴史を刻んできたのだろう。

この神内の田園風景を守り続けている子安の里の会 代表の中西さん、猿口さんにお話を伺った。

—神内の田んぼは、一枚大きなや形が異なっていますね。

中西—神内地区の田んぼは、大区画化されていないため、細長い田んぼやカーブを描いている様な形をしていたりと、色々な田んぼがあります。田植えの際には、どう走行すれば効率的か等、常に頭をフル回転しています。

猿口—中西さんは、細長い田んぼに真っすぐ苗を植える高い技術力を持っていて、田んぼがすごく綺麗なんですよ。

—出来上がったお米は、どのようになっていますか。

中西—小学校との体験活動で出来上がったお米は、一人何キロずつと、子どもたちに分けているみたいです。また、社会福祉協議会にも寄付をしています。

その他にも、小学校が9月に「収穫祭」を開催します。田植え体験活動に応援に来てくれた人を招き、皆で出来上がったお米でおにぎりを作り食べます。

猿口—紀南電工との体験活動で出来上がったお米は、紀南電工の本社(松阪市)で「紀南米」として、社員食堂で提供してもらうなどしており、皆から「美味しい」と評判も良かったみたいです。

—今後の目標を教えてください。

猿口・中西—現在行っている活動を今後も継続していくことが目標であり、「継続は力なり」と思い取り組んでいます。また、後継者の育成にも力を入れています。

神内小学校や紀南電工との体験活動等、田んぼを通して様々な方と交流があることは、神内にとっで強みだと思っております。新たな取組へとつなげることができればいいと思います。

■取材を終えて

インタビューを通して、組織は、活動できることはやってみるといふ姿勢であることが知り、神内地区を守っていく強い気持ちを感じた。

神内地区の不整形な田んぼを、右上写真のような綺麗な田園風景で維持することはとても簡単なことではないが、高い技術力と強い組織力で、景色を維持していくことができるのだと感じた。

また、組織のメンバーだけでなく、地域の人も巻き込んで様々な活動を行うことは、地域の活力を生み出すことに繋がると考える。



※紀南電工：正式名称「パナソニックエレクトリックワークス紀南電工株式会社」

取材：三重県熊野農林事務所 山口、西崎、橋本、紀宝町役場 清水(令和6年6月) 問い合わせ先：熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)



【神内小学校の生徒と田植体験活動】

—神内小学校との体験活動を始めたきっかけは何ですか。

猿口—体験活動は、多面の活動前から行っており、今年で14年目になります。

神内小学校は、神内の田んぼに囲まれています。田んぼには、カエルやメダカ、草花などがたくさん生息していて、子どもたちにとっては魅力ある場であり、足を踏み入れ遊んでしまう子もいました。

しかし、私たち農家にとっては、生きていくための「お米」を作る場です。そこで、子どもたちに神内のお米作りを知ってもらおう機会を創りたいと思い、小学校に体験学習の提案をしたのが始めたきっかけです。

—地元の企業である紀南電工との体験活動もされていると伺いましたが、取組について教えてください。

中西—平成29年から三重県のCSR活動(豊かな地域資源を活かして、社会貢献等)に取り組む企業を応援する事業)で、協定を締結し、体験活動を始めました。

猿口—体験活動は、神内小学校と同じく田植え、稲刈りを行います。毎年100人以上の社員さんと一緒に作業をし、社員さんの楽しそうな姿を見ると、こちらも楽しくなります。



【神内地区の田園風景】



組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
子安の里の会	平成27年	約33ha(田)	農地維持支払 資源向上支払(共同)